

「2けたをかけるかけ算の筆算」

1 提案の主張点

数学的な考え方を育てるための支援として次に挙げる4つの項目に重点を置いて指導を行った。1つ目は既習内容を基に課題や解決の見通しをもたせる。これまでの経験を生かして、実際に数図ブロックやお金の模型などを操作することによって、乗数の一の位、十の位の順に計算を進めることや十の位の数をかけたときの部分積をかく位置に注意することを理解させた。2つ目は実感し納得できる算数的活動を取り入れる。2けたをかけるかけ算の筆算では、計算の仕方だけでなく、かけ算の乗数と被乗数の関係や意味理解を大切にしながら、子どもが線分図や絵、半具体物を使って意味を考えていく過程を大切にしたい。3つ目は子どもの習熟度に対応するために少人数指導を行う。「じっくりコース」では、自力解決できることを目標に授業を展開した。そのために、問題解決の進め方や図をかいたワークシートを用意したり、九九表を使ったりした。「こつこつコース」では、自力解決し、方法や考え方を説明できることを目標に授業を展開した。そのために、ペアやグループから始め、全体へと広げながら、自分の考えを述べる機会を多く取り入れた。「どんどんコース」では、グループ学習を積極的に取り入れ、友達と学び合う場を多くもつことを目標に授業を展開した。自分と友達の考え方の相違点や説明の仕方から、既習事項との違い、式に表現された数字の意味の理解を深いものにしていった。4つ目は子どもが自己評価を行い、習熟するためのコース別学習を取り入れる。これは、単元終了時に子ども自身が、本単元で学習したことがどれだけ分かったかを自己評価し、どこでつまづいていたかや何を復習したらよいかを明確にする。そうすることで、目標をもった補充的学習が行えた。

2 提案に対する意見

クラスの中には学び方のタイプがそれぞれあるのでコースにあったところで学ぶことが大切である。通常のクラスでは自分の考えが言えないが、コースに分かれたことで意欲的になれる子どももいる。

評価については、単元終了時に単元全体のテストを

行った。また、ノートやワークシートを使って評価したり、毎時間それぞれの担当の教師が評価規準を使って評価したりした。

具体物を使っての指導については、視覚に訴えるためにもたくさんの模型を用意することが大切である。例えば「じっくりコース」の場合、21円の34個分まで並べなくても10個分まで並べていったら問題が把握できた。その時、21円を縦に並べることで100円ずつ、10円ずつになっていることに気がついた。

「こつこつコース」には「じっくりコース」に近い子から「どんどんコース」に近い子まで幅が広いのでまずは、「じっくりコース」に近い図から始まって様子を見ながら進めていった。

数学的な考え方を育成するために次のようなことに気をつけて支援をしている。

- ・既習事項を思い出させる。
- ・発表の際、子どもが使えるように「前と比べると」「例えば」「もし～だったら」といった言葉を黒板の横に掲示している。
- ・問題文を読んで分からない子どもには、実物や具体物を見せてイメージさせてあげる。
- ・ワークシートは「じっくりコース」の子どもにとっては考える道筋をはっきりさせるために有効だが、「どんどんコース」の子どもには自由に考えさせるためにノートを使う方がよい。

3 ご指導

子どものつまづきやつまづきに対する支援を明らかにする取り組みだった。少人数学習をする際、事前に学習内容は同じだけれど学び方が違うことを説明することで、子どもたちは安心して授業に臨める。この時、保護者にもそれぞれのコースでは何を大事にしているのかをしっかりとアピールする必要がある。補充学習についても練習問題を1から7コースと段階に応じて作っていき、家庭学習で取り組んだことはすばらしい。

かけ算の世界を広げていくような実践が進められていた。徹底して指導する単元計画が考えられている。教師の熱意ねばり強さが子どものやる気につながる。